

**令和4年度 東国文化自由研究**

**タイトル**

古墳と日本の宗教

**群馬県立中央中等教育学校**

1年2組 氏名 佐藤 義倫 (返却希望)

## 1.きっかけ

私の住んでいる千代田町には、4つの古墳がある。堂山古墳、米山薬師古墳、赤岩八幡神社古墳、西の原1号墳の4つだ。西の原1号墳や赤岩八幡古墳はほとんどの人が知らないぐらい小さい古墳である。普段暮らしているだけでは気にしない。しかし、私は「なぜ、多くの古墳は寺社仏閣や公園にあるのだろう」と、思った。この疑問の解決のために私は研究を始めた。

## 2.目的

なぜ古墳が寺社仏閣や公園にあるのか、また、古墳と宗教の関係について調べる。

## 3.1次調査

私はまず、関東地方特有の東国文化について調べた。東国文化とは、古墳時代、関東地方で栄えた文化のことであり、群馬県はその始まりといわれている。だから、群馬県には古墳が多く、県内に1万3249基の古墳があったことが、県の調べでわかっている。現代で見られる古墳は約2000基と数を減らしたが、大型のものが多く、古墳大国ともいわれている。特に中毛、東毛地域は平地だったことで、たくさんの大型古墳が見られる。調べていくと、どうやら、古墳の多くが、山、荒地、公園、寺社仏閣のどれかになっていることがわかった。堂山古墳、米山薬師古墳、赤岩八幡神社古墳は寺社仏閣になっていて、西の原1号墳は、荒地になっている。

## 4.実習①

次に私は、千代田町にある古墳の4つのうち、3つに行くことにした。堂山古墳、米山薬師古墳、赤岩八幡神社古墳の3つだ。

### (1)堂山古墳

堂山古墳は真言宗光恩寺の境内にある。光恩寺は、関東屈指の真言宗の寺で、日本初の女医、荻野吟子の生家の門や、寝釈迦像などがあり、地域でも親しまれている。堂山古墳は、全長約80m、高さ約8mの前方後円墳で、前方部には五重塔と館林城主の赤井照光の墓碑があり、後円部には梵鐘がある。梵鐘は国の重要美術品であり、1703年に江戸神田の職人によって作られた名鐘である。石室はすでに掘り起こされており、副葬品の一部である直刀などが光恩寺に納められている。今回行った古墳の中では、最も大きい古墳だ。



古墳の説明



後円部にある梵鐘



後円部から見た前方部

## (2)米山薬師古墳

米山薬師古墳は曹洞宗安楽寺の境内にある直径約30m、高さ約8mの円墳である。頂上には薬師堂があり、登るための階段には、階段の両側に七福神と思われる像が立っていた。堂山古墳と比べて整備がされていない部分が多く、周りから見ても、藪に遮られて形がはっきりと見えなかった。説明が書いてある看板も藪に隠れてはっきりと読めなかったが、米山薬師古墳は、薬師堂が頂上にあることなどから、当地方の歴史を語る上で重要だと書いてあった。境内は、西に薬師堂があり、本尊が東にある構図となっていた。寺のホームページや、参考資料がほとんどなく、実際に来て初めて情報が得られた。境内が整備されていて、磨かれた小石が敷き詰められていたり、芝生になっていたりした。



薬師堂



古墳正面(薬師堂正面)

## (3)赤岩八幡神社古墳

赤岩八幡神社古墳は、その名の通り赤岩八幡神社の境内にある古墳である。赤岩八幡神社自体はとても小さく、同じ敷地内に遊具が設置されている公園でもある。古墳は斜面が急な丘のように見えるほど小さい円墳である。頂上に御堂のような建物が建っていた。説明の書かれた看板はなく、詳しい情報は得ることができなかった。公園側に田山花袋の歌碑があった。ほとんどの人が古墳とは気づかないような目立たない古墳だった。



古墳南西側



古墳北西側



田山花袋石碑

#### (4)まとめ

今回の調査では、古墳の頂上には寺社仏閣に関する何かしらの建造物があることが分かった。これは、寺社仏閣と古墳には密接なつながりがあることが予想される。私は、小さい古墳にも建造物があることから、土地関係のものか、古墳が宗教として良い物として見ていたと推測した。

### 5.2次調査

私はまず仏教と神道について調べた。すると両方の宗教の死の価値観が分かった。神道は死を穢れとし、墓は遺体がある場所だから、神社の建物があるのは、矛盾している。ある理由として考えられるのは、昔の古墳信仰が薄れてきた時期に、後になって元々信仰していた古墳に新しい形態の参詣として設けられた物であるという説があった。仏教に関しては、昔は力を古墳で示していた豪族たちが寺によって力を示すようになったから寺に古墳があるという説があった。そして私は、あることに気づいた。山だ。古墳は昔、山として見られていたのではないだろうか。群馬県内の古墳だけでも、太田天神山古墳、観音山古墳、浅間山古墳など、幾つもの古墳には、「山」という漢字が使われている。これは昔、古墳が山として見られていたことの表れだと私は思った。古墳を山とするなら、神道は説明がつく。神道は山を信仰することが多々ある。古来より富士山や赤城山などが信仰されている。古墳を神の山として信仰しているならおかしくはない。仏教に関しては古墳が墓だと認識されるようになり、墓守のような目的でそこに寺を建てたのではないかと私は思う。

## 6. 仮説

- ①神社は古墳を山として信仰するために建てられたのではないか。
- ②寺は古墳を墓として墓守のような意味で建てられたのではないか。

## 7. 実習②

私は2回目の実習で太田天神山古墳に行ってきた。太田天神山古墳には、天満宮があるため、参考になるのではと私は考えた。太田天神山古墳は東日本最大の古墳で、全国から見ても、28位と上位であり、全長210mの超大型古墳である。後円部は直径120m、高さ16.8mである。前方部は前端幅126m、高さ12mである。森林に覆われていて、周りから見てもはっきりと古墳の姿が見えるわけではなかった。天満宮に続く階段が整備されていて、他の部分では草が刈ってある道があった。天満宮は古墳の名前にもあるとおり、天神、つまり菅原道真公を信仰する神社である。また、皇家の古墳ではないため、古墳の頂上に登ることができた。古墳の後円部の頂上には三角点と思われるものがあった。石室の入り口と思われる場所があり、その部分は文化財保護のために、ロープが張ってあったり土嚢が詰められていたりしていた。高低差が大きく、傾斜も急で、登るのが大変だった。



前方部



後円部



全体(左:前方部、右:後円部)



古墳の説明



天満宮



天満宮の神額としめ縄



古墳周辺の様子



手前:前方部、奥:後円部



天満宮の鳥居



後円部にある三角点



石室の入り口と思われる場所



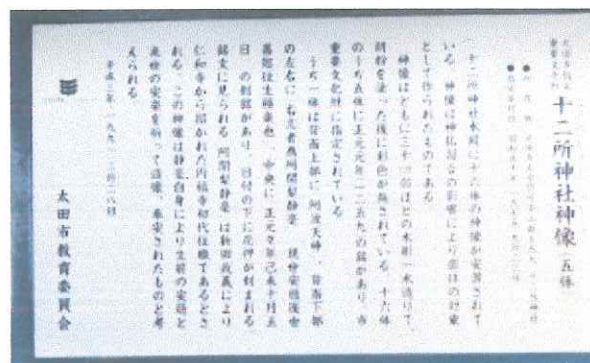
石でできた看板

## 8.3次調査

次に、他の古墳についても調べた。群馬県内では、保渡田古墳群の周辺に西光寺という寺があった。さらに、東日本4位の大きさの別所茶臼山古墳には、十二所神社や円福寺と、神社と寺が同じところにあつまっている珍しい古墳である。丸山諏訪神社は、諏訪神社古墳にある。小さい古墳だと、前橋の普賢寺には、普賢寺裏古墳という寺の名前そのものが古墳の名称に使われているものもある。県外なら、関西の大型古墳の大多数が寺となっていることがわかる。日本一の超大型古墳である大仙古墳も八竹神社や地蔵尊などが周辺にある。この調査では多くの事例がみつげられた。



丸山諏訪神社(seiji,2018,2月)



十二所神社の説明(そら黒,2020,3月)

## 9.まとめ

結果として、仮説を裏付ける決定的な証拠は見つからなかったが、それを証明するための事例はたくさんあった。この研究で多くの知識を身につけられたことをとても嬉しく思うと共に、仮説を証明できなかった未練もある。だから、今後も研究を続けて決定的な証拠を見つけられるように頑張りたい。

## 10.参考文献

[神社と古墳の関係について書かれた文献を探している。全国的にみても古墳と神社が隣接していることが少な... | レファレンス協同データベース](https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000170926)  
[https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref\\_view&id=1000170926](https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000170926)